

4 教育研究の組織

進捗状況報告

2009年度に6学科1学年460名体制となるのに向けて、教員採用や運営体制についての検討が行われた。学部教育、特に卒業研究とも密接に関係する先端的研究環境の整備については、2007年度に3件の文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業への採択があった。これらの事業を通して若手の博士研究員などが多数採用（理工学研究科「11教員組織」参照）され、学部学生にとっても大きな刺激となっている。また、実験・演習科目の充実のために不可欠な教学補佐（大学院生を雇用）については、大学院進学率（2007年度56%）の更なる向上や予算確保が引き続き課題である。

学内第三者評価

唯一の自然科学系学部として、2009年度に学科の新設や生命科学科に2専攻の設置の構想が進むなど、教育研究分野の充実をめざして引き続き取り組みが進んでいることは評価できる。また特定プロジェクトの研究者の受け入れが進んでいる。その反面で学部・研究科間の連携などでは取り組みは2007年度に課題として記述されており改善が期待される。

また、教学補佐の確保については、早急な改善が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

2009年度に、6学科1学年460名体制とするための準備が着々と進められている。申請プロジェクトの採択により若手博士研究員の大量採用ができたことは評価できるが、更に、教学補佐充実のための努力が期待される。